

担当：公益社団法人長崎県看護協会 病児・病後児保育サポートセンター（訪問型）

冬号 ほけんだより



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と共に過ごす冬も今年で3年目を迎えました。新たにオミクロン株という変異したコロナウイルスが出てきました。ニュースや新聞などからいろんな情報を入手する機会も多いと思います。病児保育事業においては、ご家族の方が安心して病児保育を利用できるように、正しい情報を確認し、また地域の感染症流行状況を把握して、感染予防対策を整えています。利用について分からないことがあれば、相談してください。

新型コロナウイルス感染症の動向も気になるところですが、地域の保育所や幼稚園、学校に通園・通学している子どもたちの中では、今実際どんな感染症が流行しているのかご存じですか？地域で流行している感染症情報を把握することで、感染予防行動につなげ、気になる症状があれば、早めの受診行動をとることができます。

県南保健所管轄(雲仙市はこの地域に含まれます)

第1位 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

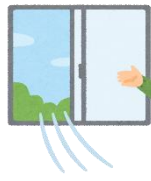
第2位 RSウイルス感染症

第3位 感染性胃腸炎

参考：長崎県感染症発生動向調査速報より
2022年第1週 1/3～1/9



もう一度見直そう！感染予防対策



免疫力UP
環境整備

定期的に換気して、みんなが触れる所は、こまめに清掃しましょう
加湿器などを利用して湿度を保ちましょう

手洗い・消毒



口と鼻をしっかりと覆いましょう

正しいマスク着用



三密回避

密閉、密集、密接をなるべく避けましょう

アルコール消毒したから大丈夫と油断していませんか？基本は手洗い！



手洗いの5つのタイミング

外出から帰宅したとき

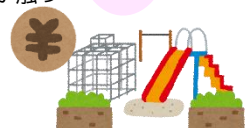
咳やくしゃみ、鼻をかんだ時

お金は、たくさんの人が触っているから、手を洗おう

食事やおやつの前

病気の人のケアをした時

外にある物を触った時



雲仙市病児保育事業って？

子どもが病気や病気の回復期にあり、保育園などに通園できず、家庭でも保育できない期間に子どもを預けることができます（要登録）。雲仙市では下記3事業所を指定して行なっています。

<雲仙市病児保育協議会>（★：ほけんだより発行担当）

★長崎県看護協会 病児・病後児保育サポートセンター

Tel.0957-25-0807

くにみ子ども園 病後児保育センター

Tel.0957-78-2286

えとう病後児サポートルーム

Tel.0957-61-1020

【お問合せ先】雲仙市子ども支援課

Tel.0957-36-2500

【雲仙市 HP 雲仙市子育て応援サイト】

<https://www.city.unzen.nagasaki.jp/kosodate/default.html>





Q 2歳の子どもが通園している保育所で、溶連菌感染症が流行しているようです。どんな病気ですか？
どんなことに注意すればよいのでしょうか？

A 一般的には「溶連菌感染症」とは化膿レンサ球菌によっておこる感染症を言います。この菌は健康なヒトののどや皮膚にもいるありふれた常在菌ですが、特に子どもでは急性扁桃炎やとびひ（伝染性膿痂疹）などの病気を引き起こすことがあります。また、菌が産生する毒素で毒素性ショック症候群やしんじょう紅熱などを起こすことがあり、後遺症として急性糸球体腎炎、紫斑病性腎炎、リウマチ熱などが起きることもあります。

代表的な病気の急性扁桃炎の症状は、急な発熱、のどの痛み、扁桃の化膿、咽頭発赤などで、舌にイチゴ状のぶつぶつがでたり、身体に発疹が出たりすることがあります。咳や鼻水のような一般的なかぜ症状はあまりありません。

主な症状

感染経路は飛沫、接触感染で潜伏期は2～5日、症状が出た直後の感染力が最も強く、潜伏期間中の感染の危険性はあまりなさそうです。人との接触の増える春から初夏、冬季に流行し家庭や学校などの集団感染も多いと言われています。きょうだい間の感染が最も多く、また近年では早期保育のため小さなお子さんの感染も増えてきています。3歳以下では症状が典型的でないこともあり注意が必要です。また、症状のない健康保菌者が15～30%あると言われていますが、健康保菌者からの感染はまれという説もあります。

確定診断は迅速テストか24～48時間で結果が得られる咽頭ぬぐい液の培養で行い、迅速テストで陽性なら確実。陰性の場合、咽頭培養を行い、結果を待つことが多いようです。

治療は解熱剤などの対症療法とセフェム系抗生剤5日間、もしくはペニシリン系抗生剤10日間内服が標準的で、抗菌薬の内服後24～48時間で他の人にはうつらなくなりますが確実に除菌するため決められた日数を確実に服用させることが大切です。飛沫対策としてのマスク着用や、手指のアルコール消毒は有効です。解熱したら終わりという病気ではないので医師の指示に従って通院してください。



きょうだい間で感染が多いんですね。家族内や親しい人に感染者がいて、症状が出れば早めに病院受診することが大事ですね。診断されたら、お薬は決められた期間しっかり内服することが大事だと分かりました！飛沫、接触感染するので、これまで行ってきた手洗いやマスクの着用、うがいを続けたいと思います。

**子どものスキンケア**

マスク生活が長くなって、口周りや顔の皮膚トラブルに悩まされていませんか？
また、食事などで口周りや手に食べ物が付くと、刺激によって、湿疹がしやすい状態になります。乾燥しやすい季節ですし、今こそスキンケアを丁寧に行ってみませんか。

基本は洗浄と保湿！

石鹸をよく泡立て、手でなでるようにこすらず、優しく洗う。肌に石鹸成分を残さず、しっかり洗い流す。顔についた汚れは、拭き取るよりは、洗う方が刺激が少なくて良いです。食事前に口周りにワセリンを塗布すると、汚れが取れやすいです。



入浴後は、必ず保湿剤を塗りましょう。皮膚が乾燥しないうちに5～15分以内に。保湿剤は擦らず、やさしく、たっぷり塗るのがコツですが、医師に処方されたものは指示に従って、市販のものは効能書きに従って、塗りましょう。

参考までに。。。軟膏の量の目安

人差し指の先から第1関節まで絞った量の軟膏を、大人の両手分の広さに塗る。
ローションなら、1円玉の大きさ。

